

## 第4回 天草市学校規模適正化審議会会議録

1 期 日	平成20年12月9日(火)午後2時1分～午後4時3分
2 会 場	天草市民センター展示ホール
3 出席の状況	<p>(1)審議会委員 22人 石橋委員、土佐委員、龍石委員、原田委員、森委員、牧田委員、藤川委員、前田委員、本多委員、高辻委員、松村委員、梅田委員、益田委員、山田委員、大久保委員、永野委員、村端委員、杉山委員、金子委員、金澤委員、井上委員、角中委員</p> <p>(2)欠席者 3人 瀬川委員、益崎委員、尾田委員</p> <p>(3)出席した事務局職員 7人 岡部教育長、嶺教育部長、沼田教育指導課参事、坂本学校教育課長、武部同課課長補佐、山名同課教育企画係長、小川同課主任</p>
4 傍聴者	なし
5 議事の内容	<p>1 開 会</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 前回会議の会議録の承認について</p> <p>4 議 事</p> <p>(1)前回会議で提供要望のあった資料の説明</p> <p>(2)学校規模適正化の基本的な考え方について</p> <p>(3)次回会議について</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉 会</p>
6 配布資料	<p>(1)次第</p> <p>(2)廃校施設の利用状況について 資料1</p> <p>(2)天草市の総合計画、教育目標等における学校規模適正化の位置づけについて 資料2</p> <p>(3)総合計画における施策体系 資料2 別紙</p> <p>(4)天草市教育目標 資料3</p> <p>(5)学校規模適正化の基本的な考え方について メモ 資料4</p> <p>(6)第3回会議の整理 学校規模適正化の基本的な考え方について 資料5</p> <p>(7)学校統合の場合の組み合わせ(案)</p>

7 議事録作成者	学校教育課教育企画係 山名 直
8 記録の方法	発言者の要点記録、録音機

## 会議記録

[司会(学校教育課長)] 天草町の瀬川委員から欠席の届けがあっている。来ておられない委員もあるが、過半数の出席であることを報告する。

[会長] 第4回であるが、会議は6回を予定されているので、まとめに入ることとなる。よろしくお願ひしたい。

それでは、「前回の会議録の承認について」配付されていた議事録について何かあるか。何かあれば事務局に申し出てほしい。では、前回会議で提供要望のあった資料について事務局から説明を。

[事務局] 資料1「廃校施設の利用状況について」は、前回口頭で説明したが、廃校施設の状況をまとめたものである。資料を説明。資料2「天草市の総合計画、教育目標等における学校規模適正化の位置づけについて」は、市の総合計画等と学校規模化の関係等をまとめた。資料3は「天草市教育目標」である。

[議長] 廃校施設の利用状況、2つ目が総合計画との関係でどういう位置づけになるのかを示している。何か質問は。

[委員] 河浦中学校の体育館は解体されて既に施設はない。

[事務局] そうですね、間違いでした。

[議長] いきいきふれあい館は高齢者のサロンとして毎日利用されているのか。

[事務局] 詳らかな利用状況は把握していないが、公民館的な利用方法である。

[委員] 旧下浦中学校の跡地は入っていないのか。

[事務局] 廃校になると翌日から普通財産となる。下浦中はずいぶん前に廃校となっているので、古いものは載せていないものもある。

[議長] 天附や内の原は福祉施設ということであるが、毎日利用されているのか。

[事務局] はい。

[委員] 廃校となったグラウンドのナイター照明はどこもあるのか。

[事務局] 学校施設は解放することとしており、学校の全てにナイターがあるのではない。

[委員] 体育館とグラウンドで「利用なし」とあるのは。

[事務局] 地域でランドゴルフや大会の駐車場等に使われていると思うが、詳しくは把握できていないところもある。

[委員] 市民に示すなら、「利用なし(駐車場)」等と利用状況を括弧書きにしておくのがいいのでは。

[議長] 「学校規模適正化の基本的な考え方について」の説明を。

[事務局] 前回会議で基本的な方針について協議がなされ、お送りした資料4は今回の審議するためのメモとして配付した。本日お配りする資料5は、前回の協議で示された考え方に基づきまとめたものである。資料5について説明する。

[議長] 基本的な考え方の原案を提示してもらった。前回の会議の資料は、適正化のやり方だけをまとめてあったが、1番に適正化を行う目的、2番に統合は痛みを伴うことから一層教育が充実するよう何か考えよう、夢のあるものを。3番以下は、前回会議の適正規模ややり方等を示したがそれを3-1とか3-2としている。表現は、持ち帰って検討してほしい。

今日は、前にお願いしていた2番目の点について皆さんで考えていただきたい。2番の空白にはキャッチフレーズも含めて言葉や、言葉でなくともやりたいことを検討してほしい。

[委員] 大矢野の登立小学校では、放課後に子どもが学校に残り、学校職員や地域の人の支援でいろいろなことをやる事業であるが、今年は予算がなかったとのことである。学校から帰っても友達がいないので外で遊ばない。統合するとスクールバスで帰るので、体を動かさない。この事業があるなら外での遊びもできるということであった。

[議長] これは実際やっているところがあるのでは。

[事務局] 社会教育分野で行っている「放課後子どもプラン事業」で、一町田小第一分校と鬼池小と新和小の3校で実施している。

[議長] 統合して離れたところで残してやるのがはたしていいのか、むしろ廃校施設を利用して身近なところでやるのがいいのか。そうすると、その跡地が整備されているのか、世話する人がいるのか等の課題もある。1つの方法であろう。

[委員] 宮地岳では、平成14年度から週末支援事業として炭焼き体験を実施している。今年は、本度北小7名と新和町の日だまりクラブの13名の参加があった。宮地岳の子は慣れているので手早いですが、本渡北と新和の子は初めてで手順が分からず時間がかかる。いまの子どもも体験させると何でもできるようになる。

すぐれた人間を育成するという夢のあるものと考え、初めから大きな夢を出してほしいと思う。

[委員] 天草では海があり山もある。これを活用し、卒業時には、海や山の博士号を与える等の方法もいいのでは。

[議長] 熊本市内小学生の体験学習は、駅での駅員、デパートの店員の体験がある。天草では、海や山の資源を生かした体験学習ができる。

[委員] 統合により、人が増えることによる特色は出しにくいですが、地域が広がることにより、知らない地域、違う地域での体験等もできるのでは。

[委員] 今の話のように、山ひとつ越えて新和から13人が来た。

[委員] ものの考え方として都会へ都会へとなるが、「宝島」であるので都会にはない豊かな自然と共生するとか、親子が共に育む教育のような言葉を入れてほしい。

[委員] 難しいのは、統廃合がなくてもできることもある。統合のメリットも出すということになれば

ば難しい面もある。

[議長] 統合しないところは対象にしないということだけでなく、この機会に天草の特色を生かした教育について考え、統廃合にならないところも一緒に考えてほしい。

[委員] 低学年を対象とした「放課後児童クラブ事業」と、高学年の「放課後子どもプラン事業」の2つがある。新和小の日だまりクラブは、基本的には児童クラブで、土日には地域との交流を行っているようだ。統合する立場からは、スクールバスの待ち時間を利用した子どもプラン事業を実施する必要があると思う。

幼小一貫教育を考えてはどうか。少ない瀬戸幼稚園と瀬戸小学校で、幼稚園終了後に学校が終わるまで預かって放課後児童クラブを行い、親の迎えでなく小学低学年と一緒に帰るというようなことができないのか。なお、放課後子どもプラン事業の事業主体はNPO等であり立ち上げる必要がある。

[議長] 小学校低学年の授業のカリキュラムがあるので簡単にはいかないと思うが、アイデアとしては面白い。

[委員] 子どもは都会に出たいというが、逆に、御所浦は全国的に化石で有名であり、修学旅行の誘致をしたら。恐竜、化石、里山を生かした交流、夏休みの交流等ができないのか。

[委員] 集団宿泊体験として、天草青年の家や芦北青年の家等の市外に行っているが、それを管内、例えば牛深の大島等で行うことはいい。

[議長] 天草の自然を生かした体験、地域の教育力についての話があっている。

[委員] とりあえず、適正化をどこまでどのような範囲にするのかを決めて、その後にスクールバスや特色ある学校について検討したら。特色のある学校づくりはある程度どの学校でも取組んでいる。学校統合の流れを早く決めるのが先ではないのか。

[議長] 組合わせやスクールバス等の話はあまりにもリアルすぎるので、この機会に夢を持たせる学校づくりをとの意見であった。学校に任せるといっているのであればそれでもいい。統廃合の基準は直ぐにでもつくられるので、この特色ある学校についてを先に検討している。

[委員] 現に行っているもので、それでいいのではと思った。

[議長] 学校でプールしてあるのはそれでいいが、学校統合を機会に特色のあるものを生かしていこう、適正化の基準と組み合わせではあんまりではないのかとの話であった。

[委員] なにかやろうとしても、教育委員会がある程度主導しないと動かないところもある。動くとしても、バス代が必要等学校でできるのには限界がある。経費があるので特色あるものをやってみるということを示さないといけない。体験活動を通して、天草の人にふれ合ってほしい、天草の特長は人であると思う。それぞれがやることと教育委員会が主導するものを方向付けしてほしい。

[委員] 天草の文化は先祖から継承され、また次ぎにつなげていく必要がある。統廃合により学校はなくなっても、地区振興会が体験学習をできるような体制、地域の教育力があるならばできる。

[委員] 会長が思い描くものは何か。

- [議長] 夢のある話は委員から出たもの。小国の場合は、統合を機会に自然と学力、特に英語を生かそうと描いた。
- [委員] 栖本小と河内小が統合したが、それを受け入れる方も変わってくる、統合により友だちが増え、勉強やスポーツに対して切磋琢磨するようになる、子ども自体が変わることができた。
- [議長] 統廃合のメリットやデメリットは前回検討して、部活動や競争のためにも統合がいいとなった。その方法として、複式学級をなくそうというのが最優先課題であり、組み合わせは自ずと限られてくる。次の段階では、組み合わせやスクールバスについて考えたい。
- [委員] この文章の「特色ある学校づくり」に問題があるのでは。現在はそれぞれの学校で体験学習を実施しているので、「豊かな自然体験学習等の特色ある学校づくりを推進し強化する」としたらどうか。
- [委員] 義務制では、あたり前のことを徹底させることが8～9割で、1～2割が特色のあるものでこれを頭に置いていたがいい。高校や大学は特色を出しやすいが、義務制は基礎的なことを徹底してやるのが主である。
- [議長] 統廃合の機会を捉えて、天草の教育を考えようと思うが、特色を出すことは難しいのも分かる。他の先進地でこのようなことの記載はあるか、各地の特色について答申を調べてほしい。事務局でも考えてみたい。2番はそういうことでいいか。
- [委員] 1番の「それ自体が目的でなく」は入れる必要があるのか。
- [議長] 子どもの教育環境の整備が中心であり、なくても文章はつながるのではとの意見である。
- [委員] 中学校では、1クラスずつの学校が統合し2クラスになっても職員数はほぼ変わらない。1日中授業があったり、個別指導したくてもゆとりがない。2クラスの学校は煩雑である。学力を向上させたいと思うがバス通学等があれば、統合しても成績が下がることもある。そのへんもいい方法があればと思う。
- [委員] 1学年2学級の中学校を経営しているが、2クラスずつの3学年の6クラスと1学年1クラスの3学級では、教員数は1人しか違わなかったと思う。単純に持ち時間は2倍になり、関わる生徒は増えるので、基礎学力や生徒指導以外についてはなかなか手が廻らない。1学年4クラスの方(の統合)が学校経営はしやすい。
- [委員] 昔は1クラス50人ほどいたときもあった。先生が子どもに関わることは少なかったかもしれないが、立派な大人になっている。あまり神経質にならなくてもと思うが。
- [委員] 基礎学力と特色ある学校とした場合には、ある程度の(クラスの)数が多い方がいいということだ。
- [委員] 今年統合した倉岳小では、スクールバスの時間が決まっているのでもう少し時間があればと思うことがある。もどかしいのが現実。
- [議長] 26年度を前提に議論しているのであり、過渡的なものであるとは思ふ。今回の答申は最終的な計画ではないかもしれないが、できるだけ子どもたちの学習環境を整えるものであ

り、限定されたなかで議論せざるを得ないのですっきりしないところもあろうと思う。

2番の表現はどうであっても、このような表現は答申にあった方がいいということでもいいか。よろしいですね。

具体的な統廃合についてであるが、複式学級の解消を図るとなれば、具体的に名前を挙げて検討してほしい。資料を配りたい。

資料について事務局より説明してほしい。

[事務局] 資料「学校統合の場合の組み合わせ(案)」を説明。複式学級の状況を示したもので、これを解消しようとするれば、これに示した組み合わせになるのではという1つの案である。牛深は旧牛深での答申を引き継ぎ、また、御所浦北地区においては、通学手段が船になることで考えたものである。中学校では、町に2つの中学校は統合ということで議論があったので提案した。

[委員] 使用する学校名は決まっているのか。

[事務局] 表現が不十分であったが、統合により使用する学校施設の名前という意味である。

[委員] 統合の時期は書いてないがいつ頃になるのか。議論の中で、地域の事情等は自分の町しか分からなかったが、答申で組み合わせということになると、地域への配慮がなされていないがいいのか。地域事情や思いを聞く必要があるのではと思う。

[議長] その議論は、最初にブロックごとにするのかと聞いたが、大体地域の事情は同じだからここでやろうとなった。パブリックコメント等なら(意見を)取ってもいいが。

[委員] 現実には、(天草町の)福連木小は、高浜に行くより(本渡の)栢宇土小が近いというとの声があっている。そういう背景も組み合わせのなかで考えてやるべきではと思う。

[議長] 地域に持ち帰り議論をやってほしい。

[事務局] 基本的な考え方を議論してもらっている。適正化の方法として、複式学級の解消を図り、学校区は基本的には現在の中学校区域ということであり、これに基づき考えられる組み合わせのたたき台を事務局として示したものの。決定ではなく、たたき台がないと議論ができない。

スケジュールについても、組み合わせや、中には分けての統合がいいという案もあるかもしれないので議論していただきたい。答申を受け教育委員会の素案をつくりパブリックコメントを経て、組み合わせや時期についても計画をつくることとなる。その後、対象地区への説明ということになる。

[議長] この審議会では委員の智恵をもとに、案を出すことであり自由な議論をやってほしい。その案がそのまま採用されるかは行政が決めることでそうならないかもしれない。そうじゃないと責任が重すぎてとても決められない。その町に1つは(学校を残す)原則だけは確認している。

[委員] 大楠小は26年度はどうなっているのか。

[委員] 26年度は80人で6学級である。

[委員] クラス替えができるようにという議論もあっていたので、統合するなら有明は1つ(の小

学校)でもと思った。

[事務局] 来年4月に赤崎と浦和が統合するので、それがまた統合するので考えなくてもいいのかと思っている。

[委員] 一度統合があったところは、5年間くらい統合しない方がいいのでは。同じ子どもが2度も統合を経験するのはかわいそう。

[議長] それは暗黙の了解事項と思うが、26年度まではこれでいくとのプランである。先ほどのような議論があるので、今度資料をつくる時には、対象になっていない学校もすべて書いてほしい。

いかがか、これは1つの案である。

[委員] 例えば、島子小学校を考えると、この案では浦和小との組合わせであるが、本渡に近いところでは本渡の方との意見が出てくると予想される。そうであるなら、校区は動かすのか、動かさないのか。地域自体が長く、親の勤務の関係もありいろいろ意見が出てくるだろう。

[事務局] 地域におろしていけば当然に議論がでてくると思う。中学校区との絡みもある。意見は計画するときに考慮するし、計画自体を変更することもあるだろう。

[委員] 私は地域の代表で参加しているが、いつの時点で地域に下ろして意見を集約するといいいのか。教育委員会が示す前でもいいのか、後か。この案をもらったので、校長や地域の人に話していいのか。

[議長] 教育委員会が素案を出してから話してほしい。そうしなければ議論が進まない。計画案を示すので。

[事務局] 答申をもらい来年5月ころには教育委員会の素案をつくり、それを地域に説明、パブリックコメントをする予定。答申自体も公表する。

[委員] それが出る前にはこれは出すなということか。私は有明町の代表として来ているが、だれにも相談しないということになると、地域の代表でなく個人の意見ということになる。

[事務局] これはたたき台であるので、島子地区の方に統合する必要があるのか、するならどこがいいのか等の意見をきくことはやってもらってもいい。具体的に浦和と統合するという話ではない。

[委員] PTA会長同士で情報交換しているが、この会議についてどこまで話をしているかの質問もあった。学校内の会議では、教員にもこれまでの経過や内容を1度は説明した。この会議が公開であるので、町の総会等では説明する必要があると思っていた。

[事務局] この会議は公開であるので、議論してもらっている基本的な考え方については公表してもらっていい。組み合わせについてはあくまでもたたき台であり、そのまま示してもらえば、まずい点もあるが、中学校区内で複式学級解消に向けて検討されている等の基本的な考え方を示してもらえばいいと思う。

[議長] 何回も述べるが、地域のいろいろな意見を背負ってくるなら責任が持てなくなる。素案を委員の一人としてまとめるのだということ考えてほしい。そうでなければ発言しにくい素案自体がまとまらない。その案で住民の意見を聞くことになる。一定のたたき台をこの会でまとめ

- たい。あくまでもこの案に対して、私たちは責任のある立場にはない。教育委員会の案が示されたときに出してほしい。直ぐに結論は出ないだろうから持ちかえり検討してほしい。
- [委員] 使用する学校施設の基準は、耐震化、人数の多いところか、地域の中心か。
- [事務局] 基本的には、人数の多いところや場所等の中心という観点で示した。
- [委員] 大楠小は複式でないので統合の対象でないが、どうせ統合するなら人数が多い方がいいと思う。
- [議長] それは4月に赤崎小の統合が決まっているのでいっぺんにはやりにくいからか。
- [事務局] それもあるが、26年度の数値を見ながらという議論であり、大楠小は複式にはならない。また、通学距離も考慮したところ。複式になるのは島子小だけであった。
- [議長] 原則に戻るが、市町合併したので中心と南北に学校をつくるか、それともそれぞれの町に小中学校を置くか、また、将来は子どもがグンと減るので思い切って1つだけにするのか、あるいは過渡的ではあるが26年度を目指したものにするのかの議論にまた戻るのも、ほかのことと併せて検討しておいてほしい。
- [委員] 使用する学校は中心とのことであるが、五和町の城河原・手野・二江では、地区の中心は手野ではないのか。耐震的にも2番目に新しい。
- [事務局] ここは、地域の中心とするか、子どもの数が多いところか議論があると思っていたが、たたき台は数とした。
- [議長] 使用する学校施設の名前は、意見がたくさんあると思う。うちは小さいが真ん中であるとかの意見が必ずでて收拾がつかなくなる。
- [事務局] 今日は使用する学校施設名を示したが、学校の組み合わせだけにした方がいいのかもしれない。
- [議長] それは、そちらの方でやってほしい。建物が新しいとか、歴史が古いとか、地域の中心地だとか收拾できない。
- [事務局] 学校の組み合わせだけにし、使用する施設の学校名は示さないことをお願いしたい。
- [議長] 使用する学校施設の名称は弾力的であることをお願いしたい。そういう意見を次の前半の部分で受けるが細かな部分については伺うだけにしたい。
- 答申をあと2回の会議で出したい。少なくとも、基本的な考え方を決めなければ進まない。これと組み合わせは答申で述べなければ行政が進まない。
- [委員] あと2回ということは、実質的審議は次回が最後になるのか。
- [議長] 最後は答申文を見てもらわなければならない。
- [事務局] 予算面ではあと2回分しかない。
- [委員] 実質的審議はあと1回ということだ。
- [議長] 次回は、組み合わせの議論 これはほぼ出来上がっている と答申案の素案が出るといいのではと思う。
- [事務局] 次回は、基本的な考え方と組み合わせについて意見を出してもらい、一方では、前



回配付した山鹿市等のような答申のたたき台を示して審議していただきたい。6回の会議には、これまでの議論を踏まえ答申案の全文について審議してもらうことを考えている。

[委員] その後に地域への説明となるのか。

[事務局] 答申をいただき、素案をつくって説明することとなる。

[委員] 地区に行くときには、われわれ委員も会場に来るとかするのか。

[事務局] そういうことはない。答申には委員の名前は載せる。

[議長] 私たちは、答申を述べるだけであり、住民が述べる意見は、教育委員会が示す案について述べるものであり、我々の答申への意見ではない。そういったことはいっさいない。そうでなければ委員は審議ができない。

次回は、組み合わせの議論と答申の素案の文章を検討することとしたい。

[議長] 次回の会議日程を決めることとしたい。協議により、1月16日(水)午後2時からとしたい。

[事務局] 会長から確認があったが、教育委員会が策定する適正化計画にみなさんの意見を反映させることとしているのでよろしく願いたい。